

2020年度 神奈川県 SDGs社会的インパクト評価実証事業  
SDGsインパクト・マネジメント研修

ここにいるその人を大切にする

# ユースポート横濱

SDGsインパクト・マネジメント実践の取り組み

2021年1月22日

特定非営利活動法人ユースポート横濱  
プロジェクトチームメンバー：熊部、池田、駒形



1. 特定非営利活動法人ユースポート横濱の概要
2. 事業の概要
3. 事業を取り巻く社会課題
4. ロジックモデル作成のプロセス
5. 事業が働きかける対象
6. ロジックモデル
7. SDGsの紐づけ
8. アウトカムと結果
9. 社会的インパクト・マネジメント×SDGsへの取組みを通じての成果
10. 今後に向けた取組み



# 1 特定非営利活動法人ユースポート横濱の概要

ここにいるその人を大切にする

## ユースポート横濱

**設立**：2006年9月

**事業所**：

- ・横浜：横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル3階
- ・新横浜（サテライト）：横浜市港北区新横浜3-18-6  
新横浜TSビル5階

**職員**：相談員常勤17名及び管理・事務職員4名

**法人ミッション**：孤立状態にあることで困難を抱えている人に対して、その人がありたい姿に近づけるよう就労や生活に関する支援をし、支援を通じて発見した課題に取り組むことによって、社会に貢献すること。



### 事業名

### よこはま若者サポートステーション事業

—働くことに悩みを抱える若者を支援—

●委託者：厚生労働省（神奈川県労働局）、横浜市子ども青少年局

●受託者：特定非営利活動法人ユースポート横濱（2006年～現在）

### 事業概要

・地域若者サポートステーション（愛称：「サポステ」）では、働くことに悩みを抱えている15歳～49歳までの方に対し、キャリアコンサルタントなどによる専門的な相談、コミュニケーション訓練などによるステップアップ、協力企業への就労体験などにより、就労に向けた支援を行っています。

・サポステは、厚生労働省が委託した全国の若者支援の実績やノウハウがあるNPO法人、株式会社などが実施しています。「身近に相談できる機関」として、全国の方が利用しやすいよう全ての都道府県に必ず設置しています（全国177箇所）。

### 事業対象者

「働きたいけど、どうしたらよいかわからない・・・」、「働きたいけど、自信が持てず一歩を踏み出せない・・・」、「働きたいけど、コミュニケーションが苦手で・・・不安」、「働きたいけど、人間関係のつまずきで退職後、ブランクが長くなってしまった・・・」など、働くことに悩みを抱えている15歳～49歳までの方の就労を支援しています。

2019年度来所延人数：13482人

2019年度新規登録者数：444人

### 3 若者を取り巻く社会課題

- ニート：74万人
- ひきこもりの若者：
  - ・全国で約54万人
  - ・神奈川県内：約2万人1000人
  - ・横浜市内：8000人

カテゴリ	主な内容
労働、経済	日本の労働力不足、税収減 8050問題 若者の貧困、経済格差の拡大 安定した就労（正規就労）ができない
社会的孤立、居場所のなさ	安心できる居場所がない、孤立している 社会に馴染めない（学校や職場でのいじめ、不登校、離転職など） 所属先（コミュニティ）がない 家庭不和
多様性のなさ	ルールを外れてしまったら排除される 人間同士が支え合えない（競争社会、自己責任論の横行） 多様な生き方が認められない 強制された価値観、その人らしい価値観を持ってない
健康状態	精神的疾患、障害 身体的疾患、障害
心理状態	働くのが辛い 目標が持てない、絶望している 自己肯定感が低い 自己決定できない（パワーレス、諦め）

## 4-1 ロジックモデル作成のプロセス

全職員（20名）が参加し、約2時間のワークショップを11月、12月に2回、オンライン（zoom）にて実施。ロジックモデルとは何か、から始まり、日々取り組んでいる我々の事業の「働きかける対象は何か?」「社会的価値は何か?」「最終アウトカムは何か?」を法人全体で言語化することに取り組んだ。

Zoom ミーティング 前幕の画面を表示しています オプションを表示

振り返り：11月全体会議にて。ロジックモデルづくり一回目

私たちの活動は何に貢献しているのか？  
・具体的な社会課題が改善または解決された状態ってどんな状態？

健康  
若者の精神的健康の向上  
経済的困窮や疾患、障害の克服  
互いに支え合う社会づくり  
国の資本(労働力、税金など)の増強  
安定した就労(正規雇用)に一人でも多く繋げる  
働けない労働力人口を減らし社会的損失を減らす  
若者の就労能力の向上・労働人口の増加  
若者の社会参加→労働力向上  
労働力(労働人口)不足の解消  
自分を肯定でき、安心して生きていける若者が増える  
とそれを取っていき、日々を過ごす状態  
安心して生きていける人が増える  
いげしよ  
若者が自己決定の結果、社会的な居場所を見つけることができる  
若者(サボステに乗る相読者)が、社会の中に自分の居場所があると感じられるようになる  
労働力  
安心  
手段? 保留  
一人ひとりが自分の個性や能力を発揮して生き生きと生きられる社会にしたい  
その人らしく生きられるようになる  
孤立を減らす  
孤立や、目標を持っていない人に寄り添い、新しい人生を作るきっかけを与える  
孤立した人が、自分以外のたれに相談できる安心を提供  
多様な社会  
多様な人がそれだいいと思える社会  
その人らしくいられる社会  
孤立した人が、自分以外のたれに相談できる安心を提供  
孤立してパワレレスの状態におかれる若者が減る  
孤立や、目標を持っていない人に寄り添い、新しい人生を作るきっかけを与える  
社会から孤立した人を減らす  
孤立した人、孤立した人の減少  
8050問題などの社会問題の予防  
孤立した人が、ワンストップで何らかの形で社会とつながる  
社会への提言はたらきかけ  
企業と若者の橋渡しをする  
働くのがしんどくない状態

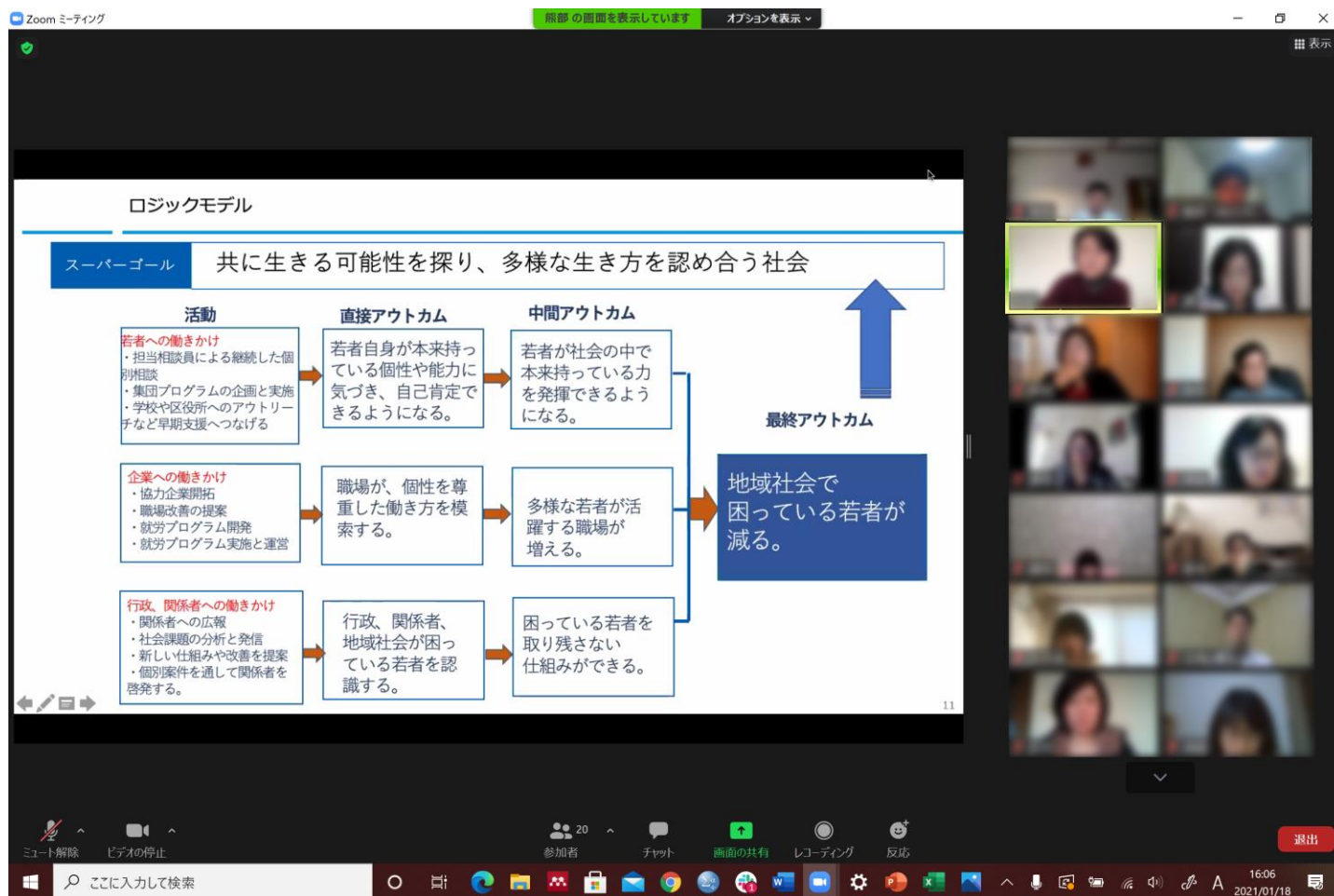
20 参加者 チャット 画面の共有 レコーディング 反応 退出

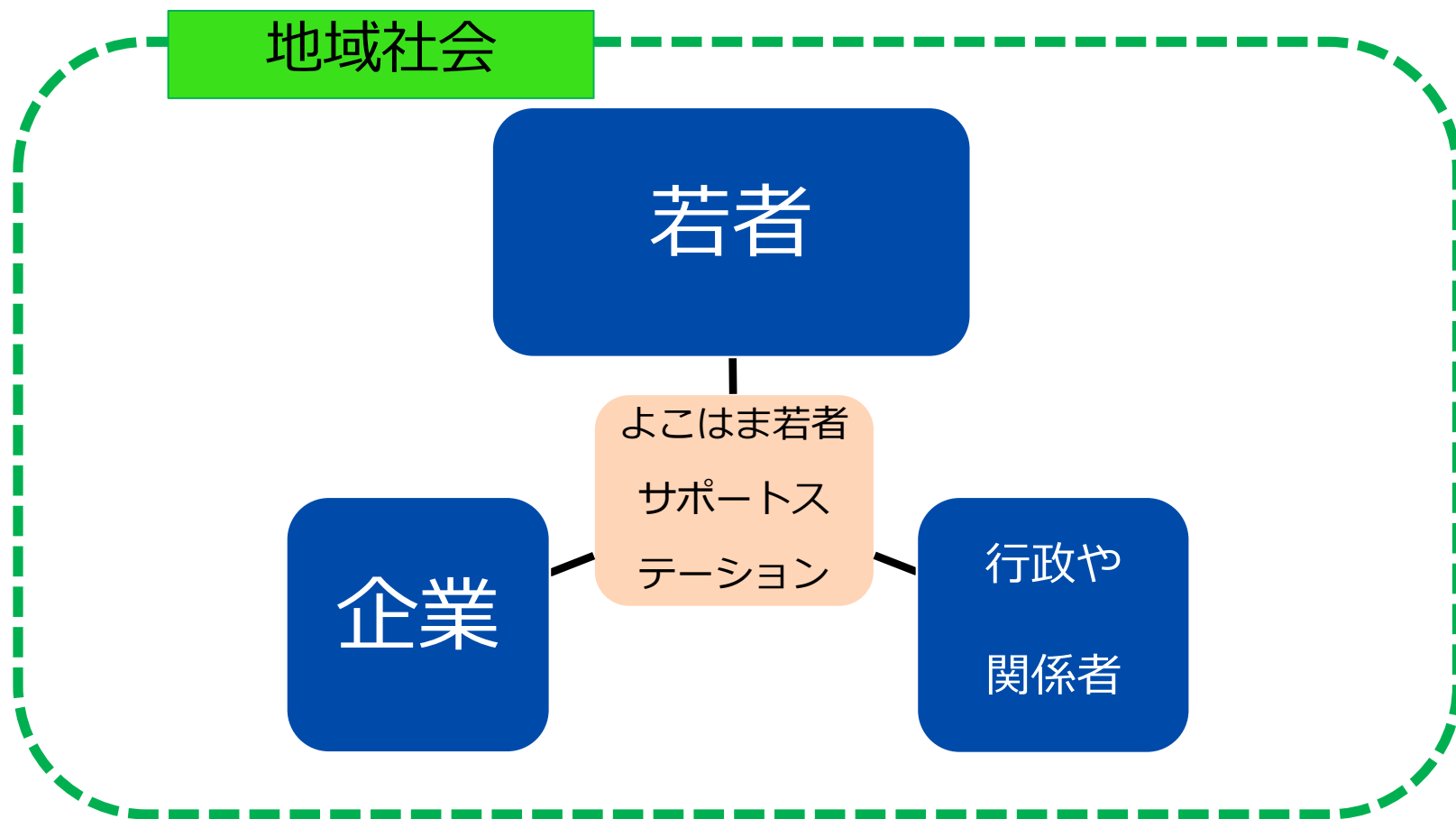
ここにを入力して検索

16:03 2021/01/18

## 4-2 ロジックモデル作成のプロセス

- 参加者全員が同意できる「言葉」を見つけることは簡単なことではなかったが、積極的な対話起きた。
- ワークショップの前後で、プロジェクトチーム（3名）でのミーティングも繰り返し、最終的には全職員が納得するロジックモデルが完成した。





悩みを抱える若者も地域社会で暮らす一人。よこはま若者サポートステーションは、若者だけでなく、若者を取り巻く企業、行政、関係者へも働きかけ、その橋渡しとなることで社会課題解決を目指す。



スーパーゴール

「共に生きる可能性を探り、多様な生き方を認め合う社会」を目指す。

活動

若者への働きかけ

- ・担当相談員による継続した個別相談
- ・集団プログラムの企画と実施
- ・学校や区役所へのアウトリーチなど早期支援へつなげる

企業への働きかけ

- ・協力企業開拓
- ・職場改善の提案
- ・就労プログラム開発
- ・就労プログラム実施と運営

行政、関係者への働きかけ

- ・関係者への広報
- ・社会課題の分析と発信
- ・新しい仕組みや改善を提案
- ・個別案件を通して関係者を啓発する。

直接アウトカム

若者自身が本来持っている個性や能力に気づき、自己肯定できるようになる。

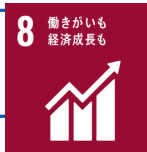
職場が、個性を尊重した働き方を模索する。

行政、関係者、地域社会が困っている若者を認識する。

中間アウトカム

若者が社会の中で本来持っている力を発揮できるようになる。

8-6



多様な若者が活躍する職場が増える。


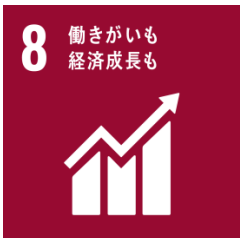

困っている若者を取り残さない仕組みができる。




最終アウトカム

地域社会で困っている若者が減る。

10-2

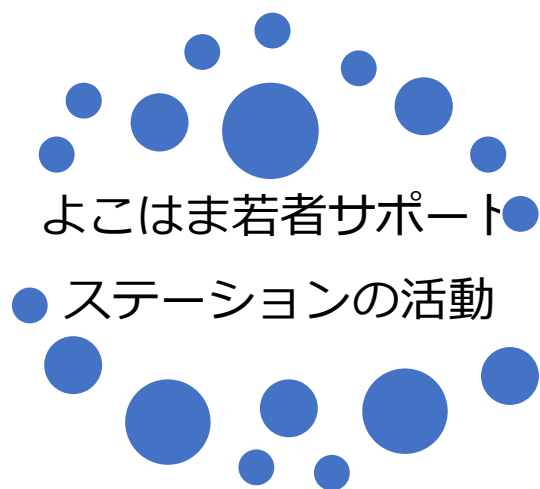


SDGsターゲット	ターゲット解釈と理由
<div data-bbox="157 379 395 615">  <p>4 質の高い教育を みんなに</p> </div> <div data-bbox="430 379 1147 644"> <p>4-4 働く技能を備えた若者と成人の割合を増やす</p> <p>2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。</p> </div>	<p>若者が本来持っている力を発揮できるようになり、多様な若者が活躍できる職場がふえると、就労できる若者が増える。及び、就学・職業訓練など社会参加をする若者が増える。</p>
<div data-bbox="157 694 395 929">  <p>8 働きがいも 経済成長も</p> </div> <div data-bbox="430 701 1147 936"> <p>8-6 就労・就学・職業訓練を行っていない若者の割合を減らす</p> <p>2020年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。</p> </div>	<p>地域で困っている若者が一人でも減ることは、「全ての人が共に生きる可能性を探り、多様な生き方を目指す社会」に近づく一歩となる。</p>
<div data-bbox="157 1051 395 1286">  <p>10 人や国の不平等をなくそう</p> </div> <div data-bbox="430 1015 1193 1279"> <p>10-2 すべての人の能力を強化し、社会・経済・政治への関わりを促進する</p> <p>2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。</p> </div>	<p>地域で困っている若者が一人でも減ることは、「全ての人が共に生きる可能性を探り、多様な生き方を目指す社会」に近づく一歩となる。</p>


アウトカム、指標	結果（全て2019年度）
<div data-bbox="140 358 410 619"> <p>4 質の高い教育をみんなに</p>  </div> <p>若者が社会で本来持っている力を発揮する。</p> <p>指標：就労その他の社会参加をする若者が増える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労や制度利用などある程度長期的に社会参加ができるようになった若者の数</li> </ul> <p><b>464人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就労プログラムに関わった事業所数：</li> </ul> <p><b>50社</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就労プログラムに参加した若者の数：</li> </ul> <p><b>189人</b></p>
<div data-bbox="140 708 410 969"> <p>8 働きがいも経済成長も</p>  </div> <p>多様な若者が活躍する職場が増える。</p> <p>指標：就労プログラムに関わる企業が増える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規登録者数：</li> </ul> <p><b>444人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者満足度調査アンケート：</li> </ul> <p><b>98%</b></p> <p>が満足または概ね満足</p>
<div data-bbox="140 1061 410 1322"> <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>  </div> <p>地域社会の困っている若者が減る。</p> <p>指標：事業利用者数の増加および利用者満足。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規登録者数：</li> </ul> <p><b>444人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者満足度調査アンケート：</li> </ul> <p><b>98%</b></p> <p>が満足または概ね満足</p>

## 1、事業の社会的価値が可視化されたこと。

よこはま若者サポートステーション事業は  
「地域社会で困っている若者が減る」ことに貢献。  
それは「多様な生き方を認めあう社会へ」とつながる。



地域社会で困って  
いる若者が減る



可能性を探り、  
多様な生き方を  
認め合う社会

2、ロジックモデル作成に全職員が関わり、事業目的や効果が明確化、可視化されたことにより、法人の共通認識、コンセンサスが固まった。

▶職員のモチベーションが向上し、活動へのコミットメントが高まった。

3、現在の事業、活動の強みや弱みが明確になった。

▶法人として取り組むべき新規事業を検討する土台ができた。

1. 2020年度内（2021年3月まで）に指標を定め、データ収集を実施する。
2. ロジックモデルを基に、新規事業の検討を始める。

